

人類に
奉仕する
ロータリー

帯広西ロータリークラブ 第2179回例会 2017.4.27 会報



■RI第2500地区テーマ■

ロータリーのあしたのために、
積極的に行動しよう

■クラブ・テーマ■

ロータリーを分かち合おう

■ゲスト紹介

フリーランスライター
ハイルハンバグ子ども応援奨学金の会

古田敦則 会長

小林 志歩 様

■会長報告

皆さんは世界幸福度指数をご存じでしょうか。これは、1人あたりの国内総生産や国民の自由度・健康寿命・政治、社会福祉制度などを手掛かりにその国の幸福度を数値化したものです。本年度最も幸せな国とされたのはノルウェーで、日本は51位、本日の例会に関わりのあるモンゴルは100位、そして最も不幸とされた国は中央アフリカでした。



古田敦則 会長

こうしたランキングは、GDPやGNPなど各種経済指標では表現できない、国民の幸福感を様々な観点から分析数値化したものでありますが、「幸福の国」として真っ先にイメージが浮かぶのは、昨年国王も来日して話題になった「ブータン」です。そのブータンが国の在り方の基本としているのが国民総幸福量という概念だそうです。これは経済成長を重視する姿勢を見直し、伝統的な社会・文化や民意、環境等を考慮した真の「国民の幸福」実現を目指す考え方です。ブータンではこの追求のために努力することが憲法にも明記され、政策を立案する際重要な基準になっています。事実、2005年の国民に対するアンケートでは実に97%の国民

が幸せであると回答しています。しかし、何世紀もの間世界で最も孤立した国だったブータンが近代化するにつれ、現実的にはこうした幸福論も今曲がり角にきており、貧富の格差などが旧来の価値観を大きく揺るがし始めているようです。

経済的発展は私たちに様々な恩恵を与えてくれます。しかし一方でそれは良くも悪くも私たちの幸せの基準をも変えていってしまいます。五大奉仕の一つである私たちの国際奉仕の在り方を考える時、その国やその地域にとって一番何が「幸せ」なのかを私たちの視点で判断するのではなく、相手に寄り添った視点で何が本当に必要なのかを考える事こそ必要なのだと思います。

■会務報告

谷脇正人 幹事

- ①・帯広南RC、5月1日(月)の例会は、休会と致します。
・帯広東RC、5月2日(火)の例会は、休会と致します。
・帯広RC、5月3日(水)の例会は、祝日のため休会と致します。
・帯広西RC、5月4日(木)の例会は、祝日のため休会と致します。
・帯広北RC、5月5日(金)の例会は、祝日のため休会と致します。
- ②帯広北RC、夜間例会開催のご案内
日 時 5月12日(金)午後6時30分
場 所 ジグザグ



会 長 古田 敦則 副会長 江口 文隆 会場監督理事 森 房明 発行：広報委員会
幹 事 谷脇 正人 副会長 山本 範之 プログラム委員会理事 河合 敏 委員長 伊東 肇 (副)辻田 茂生



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

③帯広南RC、移動例会開催のご案内

日 時 5月15日(月)午前11時20分
場 所 帯広動物園

④帯広西RC、夜間例会開催のご案内

日 時 5月25日(木)午後6時30分
場 所 北海道ホテル

⑤帯広西RC、移動例会開催のご案内

日 時 6月1日(木)午後0時 現地集合
場 所 (株)明治 十勝チーズ館
(芽室町東芽室北1線15-2 ☎61-3710)

※当日は、なるべく車の乗り合わせで現地までお越しください。

久保 且佳 委員長

今年度、2回目の家庭集会が終わりました。御協力ありがとうございました。

大友 広明 直前会長

網走地区協議会にて、ゴルフ同好会コンペで優勝致しました。

立崎 貴之 副SAA

先週、木、金、土、日、釧路で行われたオールタイムアイスホッケー全国大会におきまして帯広選抜の一員として全国優勝しました。

上野 裕司 副会計

遅くなりましたが、長男が山口の航空学校に入りました。パイロットになるかも。

齊藤 憲生 会員

本日のニコニコを発表しました。

ニコニコ献金 親睦活動委員会 齊藤憲生 会員
林 文昭 会員



・ガーデンスパ十勝川温泉を訪問いただき有難うございます。ゆっくり楽しんでください。

・例会でのお礼をニコニコへ

古田 敦則 会長

先日は悪天候の中、網走の地を協議会たくさんの方に参加いただきありがとうございました。

石原 英樹 会長エレクト

PETS・地区協議会多くのメンバーの参加ありがとうございました。

田中 耕吾 理事

先週の職業奉仕移動例会のガーデンスパ十勝川温泉には多くの皆様の参加ありがとうございました。林会員には大変お世話になりました。



◆プログラム

国際奉仕委員会理事 堂山啓太 委員長



「つながる北海道とモンゴル～交流の現在～」

フリーランスライター ハイランバグ子ども応援奨学金の会 小林 志歩 様



ここ数年、「寒冷地」というキーワードで、モンゴルと北海道の交流が活発化している。

安倍内閣は、北朝鮮と交流のあるモンゴル国を「戦略的パートナー」と位置付け、日本の首脳としては最も頻繁にモンゴルを訪問し、緊密に連携する姿勢を見せている。現在は、寒冷地技術・経験を持つ道内企業にとっては、モンゴルへ進出するにあたり、行政のサポートが得やすい状況が生まれている。

2016年、モンゴル国にとって初のEPA（経済連携協定）が、日本との間に発効した。直後の総選挙で人民党が圧勝し、またしても政権交代となった。厳しい不況が続くなか、同国企業人は日本からの投資・技術移転を切望している。庶民の暮らしは苦しく、韓国などへの出稼ぎも拡大。一方、人手不足に悩む日本の地方では、農業、加工業、建設業等で同国からの技能実習生受け入れが増加。十勝にもモンゴル人技能実習生が入り始めた。

道内・十勝発の動き

ビジネスの動きとしては、武部勤氏による「北海道モンゴル経済交流促進調査会」（札幌市、会員制）が、2016年9月に道内企業ら27人とモンゴル訪問、今年2月には現地経済人らを招き、ビジネスマッチングを行った。参加した現地企業からは、施設農業の技術・ノウハウや再生エネルギーや省エネ・低コストの暖房設備、人材育成への協力など、道内企業の技術力と投資に期待する声が多く聞かれた。

十勝でも2016年7月、元国会議員の古賀一成氏との縁から、十勝農業機械協議会が「第2回日本モンゴル農業フォーラムin 十勝」を開催、モンゴルの農政関係者らが農業現場を視察・交流した。ポテンシャルの大きい、同国の機械化農業推進に際したビジネスチャンスが期待されている。

モンゴル進出の第一歩として、JICA草の根技術協力事業を活用する道内企業も増えている。北海道中小企業家同友会とかち支部が、貯蔵庫・直売所・土壌改良の技術・ノウハウを提供する事業を展開している。JICA草の根技術協力事業は、採択されれば3年間で最大3千万円（自治体を通じて申請する地域提案型の場合）の事業資金が得られ、現地への技術指導や研修受け入れ等を実施できる。企業にとってはリスク少なく事業を始められる反面、申請や採択に時間がかかり、事務作業が煩雑などの声も聞かれる。



北海道モンゴル経済交流促進調査会の会合にて
(2017年2月、札幌市内)



道中小企業家同友会とかち支部の草の根技術協力事業で、十勝農業の実践を学ぶモンゴル人行政関係者（2016年11月、めむろファーマーズマーケット愛菜屋にて）



モンゴル国省庁幹部らとの意見交換
(2017年4月) 帯広市内にて

現地ビジネス情報



寒冷地技術・ノウハウを持つ道内企業との連携に期待し、ビジネスマッチングに参加したモンゴルの企業経営者と（2017年2月）

JICAの依頼で現地調査をしたコンサルタント（日本経済研究所）によると、同国では人口300万人のうち、150万人が首都に居住しており、茨城県と同規模のマーケットが存在する。石炭・銅など地下資源に依存する一方で、地上資源（＝家畜）が生かしていない。口蹄疫汚染国なので肉の輸出は困難だが、馬肉を使ったペットフード、チャツアルガン（シーベリー）などの健康食品、薬草なども有望。また非日常を求める秘境ツアーなども大手旅行会社が始めており、観光分野も可能性があるとした。

ビジネス進出で何より重要なこととして、「パー

トナー選び」を挙げた。（詳細は、JICAウェブサイト近く掲載予定の、この調査に基づく新しいモンゴル投資ガイドのリンクをご参照ください）

十勝で「学ぶ」「働く」

モンゴルと関わるなかで、農業や加工業の現場を見たモンゴル人の多くが「学ぶことがたくさんある」と目を輝かせて話す。日本の高専関係者の尽力で近年ウランバートルに開設されたモンゴル高専では「学生に日本のものづくりの現場を体験させてほしい」とインターンシップの受け入れを呼び掛ける。JICA拠点や帯広畜産大学という国際的な学び



帯広在住モンゴル人の皆さんと（2017年2月、帯広畜産大学にて）

のインフラも経験もある十勝。地域の生き残り戦略として、実践的な農業・畜産・酪農・農業機械技術を長期間滞在して「学べる」「(学びながら)働ける」場を、モンゴルを含むアジア諸国から公募で受け入れる教育ファームやインターンシップ制度を提案したい。企業の進出時に現地パートナーとなる人材の育成にもつながる。

帯広畜産大のモンゴル人留学生（多くは獣医師や研究者）は、家族を連れて居住している。市内保育園や学校に通うモンゴル人の子どもたちは10人以上。地元にとっては、身近な「外国」として地域の国際化にプラスとなっている。学位取得後も十勝に滞在したいとの希望する人も少なくない。滞在中はもちろん、卒業後に、彼らの専門性や知識、経験が生かされる活躍の場が地域に増え、地元企業にもメリットがある、そんな関係づくりに貢献していきたい。

とかちモンゴル会 ブログ <http://tokachimongol.seesaa.net/>

ハイルハンバグ子ども応援奨学金の会 <http://hairhan.seesaa.net/>

【お知らせ】4月のロータリーレートは、\$1=116円です。

※次週プログラム予定 5月4日(木)「休会」

5月11日(木)「下期活動報告と次年度会長挨拶」(青少年奉仕委員会)

帯広RAC 会長 奥 朋聡 様

次年度会長 川瀬 千尋 様